



〈土器さわり体験（郡山市立桑野小学校）〉

1学期のおでかけまほろん

「おでかけまほろん」は、福島県内の小中学校に当館の学芸員が出向いて授業を行なう館外体験学習事業です。平成22年度は27校にお伺いする予定で、すでに尾野本小（西会津町）、掛田小（伊達市）、桑野小（郡山市）、緑小（猪苗代町）、原瀬小（二本松市）、上遠野小（いわき市）・川部小（いわき市）・好間第四小（いわき市）・平養護学校（いわき市）、門田小（会津若松市）、にお邪魔し、さらに今月は川谷中（西郷村）、菅谷小（田村市）、小白井小・中（いわき市）、川前小・中（いわき市）で授業を行います。

この「おでかけまほろん」では、児童・生徒さんに古代の実物資料に触れたり、古代の技術を体験してもらうことで、古代の人々の暮らしや知恵・技術を学び、身近な地域の歴史に親しみを感じてもらえるよう、まほろんでも特に人気のある勾玉づくり・火おこし・弓矢体験・土器さわりの4メニューをご用意しております。

なかでも、もっともお薦めしたいのは、本物の土器に触っていただく土器さわり体験です。まほろん収蔵の土器はいずれも県内で発掘されたものなので、地域によっては学校の近くで見つかった土器を手にとっていただくことも可能です。普段は教科書や展示ケースの中でしか見ることのできない本物の土器を、この機会に触ってみませんか。

なお、平成23年度「おでかけまほろん」実施校の募集は、来年の2月頃に当館ホームページを通じて行なう予定ですので、ぜひご応募ください。

実技講座「まっ茶茶碗をつくろう」

まほろん実技講座「まっ茶茶碗をつくろう」は、まっ茶茶碗づくりをとおして、まっ茶茶碗の種類や器の形、「茶道」の歴史に触れる講座です。

今年度の講座は、5月15日（土）、16日（日）、6月13日（日）の3日間にわたり、開講しました。

講座初日は、手回しロクロで茶碗の形をつくる「成形」を行いました。茶碗のつくり方には「玉づくり」「紐^{ひも}づくり」「ロクロづくり」がありますが、当講座では、「玉づくり」を採用しました。「玉づくり」は、最初にソフトボール大の粘土玉をつくり、手回しロクロに両



＜茶碗づくりの説明＞

手で押しつけながら円錐形をつくります。この最初の行程が大事で、ロクロ軸と円錐形の粘土の軸が合っていないとゆがんだ形の茶碗ができてしまいます。それから円錐形の粘土の頂点に指で穴をあけ、その穴を広げるように、粘土を指でつまみ上げながら茶碗の形をつくっていきます。初めて受講された方々は、不安げな表情で始めましたが、形が整ってくるのと同時に納得の表情になり、できあがる作品の姿を想像しているようでした。受講生のみなさんは、初日の工程を丁寧に行っていたので、均整のとれた作品ができました。

講座2日目の5月16日は、仕上げの作業を行いました。作品をロクロに逆さに置いて「高台^{こうだい}」を削り出しました。作業では、高台の大きさや形にこだわりながら作業を進め、丁寧な作業を心がけていました。

この後、乾燥に3週間・素焼き・釉掛けの工程を経て、窯出しされた作品は、とても素敵なまっ茶茶碗に焼き上がりました。

講座3日目の6月13日は、当講座で作成したまっ茶茶碗を使って、皆で喫茶体験を楽しみました。



＜高台の削り出し作業＞

夏のまほろん

まほろんイベント「まほろん夏まつり」

開催日時：平成22年8月1日（日）10:00～15:00

6月に入り、まほろんの木々の緑も日増しに濃くなっています。今回は、夏のまほろん最大のイベント、「まほろん夏まつり」をご案内します。

イベントのメインは、昨年から始めた「古代三種競技：まほろんカップ」です。「古代三種競技」とは、「弓矢」・「槍投げ」・「火おこし」の三種類のまほろんを代表する体験メニューのことです。「弓矢」は当てた的の点数で、「槍投げ」は飛んだ距離で得点を競います。「火おこし」は発火した時間の早さが得点となります。それぞれの総合得点で1位から3位までの競技者に表彰状と記念品が贈られます。

また、「まほろんカップ」の競技中以外の時間には、「弓矢」・「槍投げ」・「火おこし」の体験は自由にお楽しみいただけます。

「まほろんカップ」や「弓矢」体験などのほかにも、さまざまな体験を用意しています。

「古代のすり染め体験」は、原始的な染色の1つです。「藍染め」の原料になるタデアイという植物の葉を、石などのかたい台の上で布にすり込んで染色します。色は淡いブルーに染め上がります。

「かき氷体験」は、昔ながらの手動のかき氷機で、お客様にかき氷をつくっていただく体験です。甘いシロップも用意しております。「弓矢」や「槍投げ」の



＜弓矢競技のようす＞

体験のあとに召し上がると最高です。

「勾玉無料抽選会」は、勾玉づくりセットが当たる抽選会です。勾玉づくりセットが当たったお客様は、館内で勾玉をつくることができます。

体験活動室では、通常の「勾玉づくり体験」もお楽しみできますし、「夏の特別体験メニュー」の中には、普段は見るできない収蔵庫などのまほろんの楽屋裏を見学する「バックヤードツアー」も行います。

「まほろんカップ」で熱く燃えるまほろんで、真夏のひとときをお楽しみください。

また、まほろんでは、小・中学校の夏休みにあわせて、「夏の特別体験メニュー」を実施します。「弓矢」や「槍投げ」など、まほろんでは普段行っていないメニューをお客様に体験していただきます。こちらも大いに楽しんで下さい。

企画展示案内

ふくしま森林文化企画展

「原始・古代の森と人との共生」

会期：6月26日（土）～8月29日（日）

会場：まほろん特別展示室（入場無料）

遠い昔に生きた私たちの祖先は、移り変わる環境に合わせて、石や鉄の道具で森を切り拓き、森の様々な資源を活用して、生きるための道具を作り、植物や動物などの森の恵みを食料としてきました。

今回の展示では、森と人との共生をテーマに森を切



〈石斧〉

り拓く道具の斧をはじめ、森と共に生きた人々の残した貴重な資料を館蔵品はもちろんのこと、県内外の施設からも資料を借用して展示しています。

最初のコーナーでは、遺跡から見つかった原始・古代の石斧・鉄斧が時代順に展示され、その中で新潟県新発田市上車野E遺跡と同県村上市アチャ平遺跡の磨製石斧はその製作過程を知ることができます。

次のコーナーでは、木製品や漆製品を中心とした山形県高島町押出遺跡出土品や森に囲まれた新潟県村上市元屋敷遺跡出土品から縄文時代の人々の生活の様子を伺うことができ、3番目のコーナーでは、森の植物や動物に関係した出土品が並んでいます。可愛い動物形土製品も皆様のご来場をお待ちしております。



〈獣面付土器〉

まほろん研究広場

居宅と火葬墓

古代の宇多郡（現在の相馬市・新地町）は、東日本有数の鉄生産地でした。その性格は、律令国家が「造都」と共に最重要視した「対蝦夷政策」に伴い、技術移植したものと考えられています。近年、鉄生産に携わった役人の居宅跡と火葬墓跡が発見されました。

そこで、以下に紹介しましょう。

まず居宅跡は、郡役所付近の平野部に立地した相馬市明神遺跡に営まれています（図①）。年代は、8世紀中頃と考えられ、典型的な律令期型居宅としては、宮城県壇の越遺跡と並ぶ東北最古例に位置づけられるものです。さらに、その一面から常総型と呼ばれる土師器甕が出土したことも重要で、居宅主が、やはり東日本有数の鉄生産地であった常陸方面との交流を有していたことを示しています。



図①

居宅主のと考えられる火葬墓跡は、居宅跡から北に約500m離れた山岸硝庫跡で発見されました。その立地は、居宅を背後から見下すことができる低丘陵上の一面を占め、相互の密接な関係は明らかです。当時の奈

良盆地では、平城京北側の丘陵が官人墓城の第一等に設定されており、両遺跡の位置関係はこうした中央の風習の影響を受けた可能性があります。また、8世紀中頃の火葬墓跡は、東北最古例であるばかりでなく、地方への波及としては全国的にも早い段階のものになります。

写真①



さて、写真①に注目してください。これは、火葬墓に納められていた蔵骨器です。胴部外面に4個の耳が付く珍しい形をもち、蓋が伴ったと推定されます。類例は、県内はもちろん、東日本全体にも見当たりませんが、なぜか遠く離れた近江国栗太郡（現在の滋賀県栗東市一带）に集中しています。

実は、かねてから宇多郡の製鉄技術導入には、同地域との関係が指摘されていました。そうすると、この火葬墓は、近江の製鉄集団の墓制に系譜が求められ、宇多郡と近江の交流は、従来考えられていたより多様な側面まで及んでいたことになります。

対蝦夷政策に伴う鉄生産が盛んだった宇多郡は、城柵設置範囲と異なる遠隔地交流が活発でした。居宅と火葬墓の一連の特徴は、こうした地域性の一端を反映したものでしょう。（専門学芸員 菅原祥夫）

文化財研修のご案内

7～9月の研修

平成22年の7月から9月までの文化財研修は次の7コースを予定しています。

7月10日(土)は、考古学基礎講座Ⅲ「衣食住の歴史(食)」を行います。江戸時代の食文化について、考古資料、文献資料に照らしながら、わかりやすく解説します。7月22日(木)から23日(金)にかけて行う「文化財保護指導者研修会」は、県内各市町村の文化財保護について指導的立場にある方々を対象とした文化財に関する専門的研修です。7月31日(土)には考古学と関連科学研修として「縄文時代の環境変化」を行います。これは福島県内の縄文時代の環境変化について、自然科学分析を通して研修します。8月

には、8月4日(水)から6日(金)の3日間、「教職員発掘調査体験研修」を行います。遺跡発掘調査の作業を本格的に体験し、それによって得られた成果を学校教育や生涯学習に役立てる研修です。8月28日(土)に行う体験学習支援研修Ⅰ「古代の染色」は、体験学習を文化財啓発や公民館活動、学校教育に応用しようとする方々のための研修です。今年度はタデアイを中心に、古代より行われてきた染色技術について学びます。9月は、9月11日(土)に調査技術基礎研修を「石造物の記録方法」をテーマに行います。板碑の研究法と実測法を学び、地域に埋もれた歴史を掘り起こす実践講座です。9月25日(土)は専門考古学講座Ⅰ「多賀城政庁跡研究の新知見」について、多賀城政庁跡の発掘調査に直接携わり、研究を進められている講師に最新の成果を報告していただきます。

シリーズ収蔵品紹介 10

桜町遺跡の弥生土器

今回紹介するのは、会津盆地のほぼ真ん中に位置する湯川村の桜町遺跡の平成16年度の調査で出土した弥生時代後期の土器です。桜町遺跡は弥生時代後期と平安時代を中心とした遺跡です。会津縦貫北道路建設に伴う発掘調査によって、弥生時代後期の方形周溝墓が7基確認され、その中から多くの弥生土器が発見されました。方形周溝墓とは、遺体を埋葬する部分は土を盛り上げて塚状にし、その外周に溝を掘って四角形に区画したお墓です。弥生時代前期後半に近畿地方で最初につくられ、その後、東日本に広がりました。

桜町遺跡で出土した土器は壺形のもの(壺形土器)や台付きの杯形のもの(高杯)が多く見られ、中にはベンガラ(赤色酸化鉄)で赤く塗られた土器も含まれます。おそらくこれらの土器は、死者を弔う埋葬儀式などでお供え物を入れたものと考えられます。

方形周溝墓から出土した弥生土器は、会津盆地の伝統のある縄文のついた土器(天王山式系)を主体としていますが、北関東や北陸地方の弥生土器の特徴を取り入れた土器が多数有ることから、この時期に人々の広範な地域間交流があったことが伺われます。おそらくこの頃に会津盆地に定着した新たな集落が、水田稲



＜桜町遺跡：方形周溝墓内から出土した弥生土器＞

作などの農業経営をもとにしながら比較的急速に成長し、次第に階層差が生じ、その中から権力をもった有力者が現れたと考えられます。方形周溝墓はこのような人物のお墓として登場したと思われます。

近年、会津地方の古墳文化の成立には、北陸地方の強い文化的影響があったことが指摘されてきましたが、桜町遺跡の調査成果は、その前段階に広範な地域交流があって、方形周溝墓が導入され、やがて会津若松市の会津大塚山古墳や会津坂下町の亀ヶ森古墳などの前方後円墳に代表される古墳時代を迎えることになったと考えられます。その点では、桜町遺跡の古墳時代直前の方形周溝墓の出現は、画期的な歴史事象と言えるのではないのでしょうか。桜町遺跡の弥生土器はそれを雄弁に物語っています。

(副主任学芸員 稲村圭一)

まほろんからのお知らせ

夏休みは無休です

もうすぐ夏休み。7月21日(水)～8月24日(火)の間中は、月曜日も開館しています。

楽しい体験を盛りだくさんで準備しています。

ぜひ、遊びに来てくださいね。



ご利用案内

開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

休館日 月曜日(月曜日が祝日・休日の場合はその翌日、ただしGW・夏休み期間中は開館)、国民の祝日の翌日(土曜日・日曜日にあたる場合は開館)、年末年始(12月28日～1月4日)

入館料 無料(体験学習によっては、材料費が必要な場合もあります。)

その他 団体(20名以上)でご利用の場合は、事前にご予約ください。